

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：32627

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00129

研究課題名（和文）日本・フランス・ベトナム ポスト・ジャポニスム期における美術と芸術の伝播

研究課題名（英文）The Diffusion of Japanese Arts and Crafts during the Post-Japonism Period: A Comparative Study on the Situation in Japan, France and Vietnam

研究代表者

二村 淳子 (Nimura, Junko)

白百合女子大学・文学部・准教授

研究者番号：20782452

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、フランスで生まれた「ジャポニスム」を、日本とフランスという二国間の往来からではなく、ベトナムをそこに加えて三点測量をしたものである。具体的には、フランスによる日本の美術と芸術の拡散、ベトナムによるその受容および展開、それに対する日本の反応を資料によって確認した。インドシナのフランス美術行政は、フランス本国の工芸学校や職業学校において、日本の装飾美術をお手本とし、日本から教師を招き、「日本風」の芸術教育を試みていたのである。従来はベトナムになかった技術・構図・主題・技術が受容・展開されていた経緯が確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで、「ジャポニスム」は「19世紀後半に西洋で流行した日本趣味」と定義されており、場所も時代も限定されて使用されることが多かった。本研究は、こうした枠（時代と空間）を広げ、日本趣味と日本装飾の伝播を「ポストジャポニスム」としてとらえようとするものである。また、これまでほとんど研究が進んでいなかった仏印進駐時代の美術交渉の解明に寄与したと考える。当研究の成果は、ジャポニスムを新たに位置づけなおす契機を与え、また、東アジアにおける「美術」の生成の解明に寄与するものである。

研究成果の概要（英文）：This research examines “Japonisme” created in France, not by studying the bilateral traffic between the two countries of Japan and France, but by using a three-point approach including Vietnam. Specifically, the study identified the proliferation of Japanese aesthetics and art by France, its acceptance and development by Vietnam, and Japan's response to this through documents. The French art administration in Indochina tried to educate the arts in the “Japanese style” by inviting teachers from Japan and using Japanese decorative arts as a model in the art and craft schools and vocational schools in France. As for lacquerware, maki-e, a lacquerware technique not previously found in Vietnam, can be confirmed. As for painting, the composition, subject matter, and techniques of ukiyoe were accepted and developed.

研究分野：東アジア美術史、比較芸術論

キーワード：ポストジャポニスム インドシナ美術学校 関口俊吾 仏印 従軍画家 グエン・ヴァン・ト ハノイ 職業学校 植民地と工芸

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

【様式 C-19, F-19 - 1, Z-19 (共通)】

1. 研究開始当初の背景

これまで、申請者は、ベトナム近代美術史を研究してきた過程で、インドシナの美術行政関係者たちが日本装飾や日本の藝術教育についてしばしば語っていることに気づいた。また、インドシナ美術学校の卒業生たちの作品の数々がどこか日本画に似ていることに関しても不思議に思っていた。「マキエ」、「カケモノ」、「マキモノ」など、日本語が美術用語としてしばしば用いられ、大首絵などの人物画の構図、身支度をする女性などのテーマ、「美人画」というジャンル、木版画のような陰影のない色の塗り方まで、どのようにして、なにゆえに、ベトナムにこれら日本美術/藝術の要素がベトナム美術/藝術にまぎれ込んでいるのか。これに関する先行研究は存在せず、これまでの申請者のベトナム美術史研究の蓄積から解いていこうと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、20世紀前半を「ポスト・ジャポニスム期」と位置づけ、日本・フランス・ベトナムという当時の三国間の美術・藝術をめぐる交渉を明らかにすることを目的とした。具体的には、以下に挙げる3つを実証的に究明することを目標とした。

1. フランスによる日本藝術の拡散
2. ベトナムによるその受容と変容
3. 日本の反応と接收

上の3つにより、ジャポニスム（日本研究と日本美術愛好）の地理的・年代的範囲の再検討を行った。

3. 研究の方法

文献学的調査とフィールドワークの双方を行う予定であったが、新型コロナウイルスのために結果的には文献調査のみになり、フランスへの渡航のみになってしまった。

- a) 海外の調査（刊行物・書簡・公文書類）
フランス国会図書館、パリ大学美術史図書館、エクス＝ヴァン＝プロヴァンス海外文書館、フランス極東学院図書館、モーリス・ドニ美術館、ポローニュ・ビヤンクール30年代美術館
- b) 国内の調査（公文書類）
独立行政法人国際交流基金ライブラリー、兵庫県立美術館
- c) 画家・関口俊吾のご子息とのメールおよび手紙のやりとり（海外）

4. 研究成果

本研究によって、旧インドシナにおいてジャポニスムがどのような意味を持ち得たのかが明らかになった。フランス人たちは、フランス式の「応用美術」を軸に、日本の殖産興業を生産モデルや装飾をそこに加え、ベトナムを、日本を凌ぐ美術工芸輸出大国に育てようと企画したのである。

ベトナムにおけるフランス主導の美術教育に関する反応は、知識人グエン・ヴァン・ト (Nguyen Van To、阮文素 1889 - 1947)の言説から読み解くことができた。彼は、アンリ・フォッシュの思想などを引用しながら、デザインが手わざに先行するものづくり（つまりインドシナ美術行政がインドシナ半島に持ち込んだ装飾芸術）を批判している。しかし、植民地下という状況や、労働を賛美したヴィシー政権下という当時の背景が絡み合っているため、阮文素の言説は再考の余地がある。

日本の反応と接收に関しては、1940年代の日本軍による仏印進駐時代の従軍画家の代表格であった関口俊吾が残した資料をもとに分析することができた。彼が残した多くの写真や記述から、ハノイ日本文化館の様子や、ドクー総督とのやりとり、「関口賞」なる個人資金による美術賞の設置などが確認できた。

研究成果の一端を2021年夏に端緒として出版することができた（二村淳子『ベトナム近代美術史：フランス支配下の半世紀』、原書房）。2023年、この著書に対し、第20回木村重信民族芸術学会賞が与えられた。研究の成果を一般読者に還元することができたと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 二村淳子	4. 巻 53 (5)
2. 論文標題 マティスとアジアの邂逅	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 280 - 287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二村淳子	4. 巻 57
2. 論文標題 関口俊吾のベトナム：1944年のハノイ、サイゴンでの展覧会を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 白百合女子大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 89-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24510/00001037	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 4件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 二村淳子
2. 発表標題 二〇世紀前半のアジアにおける文化の翻訳：Beaux-artsはどのようにベトナムで訳されたのか
3. 学会等名 日本比較学会 2022年度 第84回 日本比較文学会全国大会 シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二村淳子
2. 発表標題 1931年パリ植民地博覧会・インドシナ館について ヴィクトール・タルデューの報告書を中心に
3. 学会等名 民族芸術学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Junko NIMURA
2. 発表標題 Un regard sur l'institution de l'Ecole des Beaux-arts d'Indochine : Le Japonisme et l'artisanat colonial
3. 学会等名 Franco-Vietnamese-Japanese Cultural and Educational Exchange: History and Evolution (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二村淳子
2. 発表標題 ベトナム絵画の近代：純粋美術と応用美術の間で
3. 学会等名 ベトナム研究者会議（2022年研究大会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二村淳子
2. 発表標題 コロナウム ASIA 1930s ネーション/美術/モダン
3. 学会等名 アジア近代美術研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 二村淳子
2. 発表標題 ベトナム「美術」の創出 言葉・概念・実践
3. 学会等名 東京都立大学 中国文学研究室主催 学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Junko Nimura
2. 発表標題 "Renaissance" au Vietnam : les approches comparees de Pham Quynh et de Tenshin Okakura Kakuzo; sur la question de la modernite en Asie Orientale
3. 学会等名 Modernites et construction relationnelle des identies nationales en Asie de l'Est, 1856-1945 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 二村淳子
2. 発表標題 「安南藝術」からベトナム美術へ：サロン23を中心に
3. 学会等名 2020年度日本比較文学会秋季九州大会 2020年12月5日
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 岩井美佐紀, 清水政明, 柳澤雅之, 下條尚志, 樫永真佐夫, 澁谷由紀, 大田省一, 芹澤知広, ファン・ハイ・リン, 大泉さやか, ド・マン・ホーン, ゴ・ミン・トゥイ, レ・ホアン・アン・トゥー, 小高泰, 比留間洋一, 加藤敦典, 栗原浩英, 西村昌也, 二村淳子 その他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 440
3. 書名 現代ベトナムを知るための63章【第3版】	

1. 著者名 瀧本弘之, 戦暁梅, 吉田千鶴子, 松村茂樹, 東家友子, 三山陵, 趙怡, 華天雪, 佐々木幹, 陳琦, 吳孟晋, 劉建輝, 下田章平, 中尾徳仁, 菅野智明, 二村淳子, 李趙雪, 畑山康幸	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 372
3. 書名 近代中国美術の境界	

1. 著者名 二村淳子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 原書房	5. 総ページ数 480
3. 書名 ベトナム近代美術史: フランス支配下の半世紀	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------